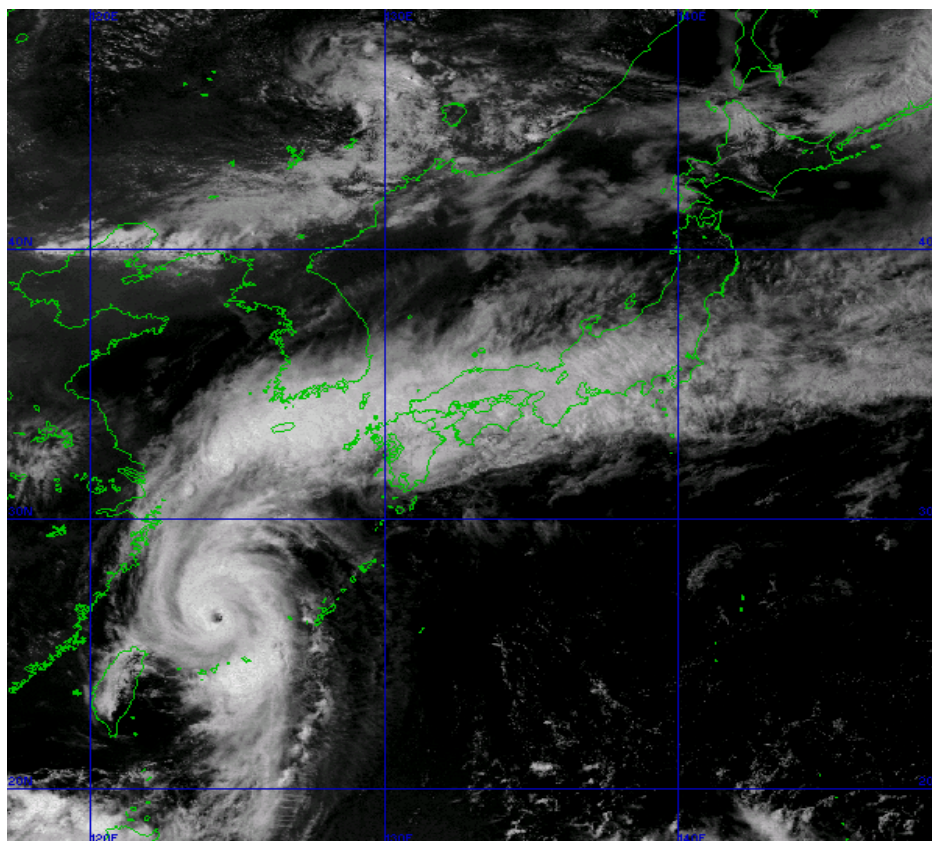


# 気象衛星画像

## －今月のトピックス－



2003年6月18日15時の可視画像

### 梅雨前線による大雨

6月9日に「つゆ入り」してからの九州地方は、連日のように雨が降り続き、18日までに宮崎県の日向で575ミリに達した他、九州地方南部を中心に400ミリを超える大雨となった。翌19日には台風第6号の接近・通過でさらに雨量が増え、土砂災害や家屋浸水が発生した。

写真は6月18日15時の可視画像である。東シナ海北部から本州上を梅雨前線に対応する雲域が伸びている。この雲域の南側は太平洋高気圧の勢力下で、雲のまばらな領域が大きく広がっており、西縁は南西諸島付近まで及んでいる。前線を活発化させる要因の一つである暖湿な空気の流入は、高気圧の縁辺流や台風などによって送り込まれる。

九州地方は高気圧の西縁付近にあたっており、さらに北上する台風の影響もあって南海上から暖湿な空気が入りやすくなっている。このようなパターンは集中豪雨などを引き起こすことがあるので注意が必要である。

(気象衛星センター)